

2026年度競走馬生産育成研究助成事業 助成課題募集要領

1 助成の趣旨

一般社団法人日本競走馬協会(以下「協会」という。)が行う競走馬生産育成研究助成事業は、競走馬の研究等を行う大学に対して助成することによって、競走馬の生産、育成、調教、流通等に寄与する研究の推進に資することを目的としています。

2 助成対象とする研究等の内容

(1) 競走馬に関する研究

新規応募は、別紙に掲載した募集テーマのいずれかに該当する研究とします。

なお、継続応募は現在助成を受けている研究とします。

(2) 競走馬に関する研究成果情報の収集

別紙に掲載した募集テーマのいずれかに該当する国内外の研究成果情報の収集とします。

※本事業でいう「競走馬」は「競走馬向けの軽種馬(種牡馬、繁殖牝馬を含む)」とします。

3 助成の対象者

助成の対象者は、2に掲げる研究等を行う日本国内の大学とします。

4 助成金額

助成金額は、2の(1)は1件当たり年間300万円を上限、2の(2)は1件当たり年間100万円を上限とし、研究計画等を審査した上で、協会が決定します。

5 助成対象期間

助成対象期間は、2027年1月1日から12月31日までの1年間とします。

ただし、2の(1)の研究への助成については、1つの研究課題は最高2回まで(連続する3年間)継続応募を可能とします。

なお、2の(2)の情報収集への助成については、1つの課題での継続応募はできません。

6 応募方法

(1) 助成申請書の提出

協会所定の申請書を協会ホームページ(<http://www.jrha.or.jp>)よりダウンロードし、同ホームページ掲載の申請書記入要領に従って必要事項を記載の上、次の提出先まで郵送にてお申し込みください。

提出先 〒106-0041 東京都港区麻布台 2-2-1 麻布台ビル
一般社団法人 日本競走馬協会

(2) 応募期間

2026年7月27日から9月30日まで(必着)

7 助成課題の選考及び助成金の交付

- (1) 協会の選考委員会において選考し、2026年12月に採否を申請者に通知します。
- (2) 選考審査の内容についてのお問い合わせには応じられませんのでご承知おきください。
- (3) 助成金は、申請者の所属大学あてに2026年12月中に交付します。
- (4) 私立大学に対しては、日本私立学校私学振興・共済事業団の受配者指定寄付金制度を利用して助成金を交付します。私立大学で受配者指定寄付金制度を利用できない場合には申請時に当協会にご相談ください。

8 助成対象者の義務等

- (1) 2028年3月31日までに研究成果及び助成金収支の報告書を提出していただきます。
- (2) 研究助成における研究成果については、日本ウマ科学会が発行する「ヒポファイル」又は「JOURNAL OF EQUINE SCIENCE」に、協会の助成を受けた旨を明記した上で投稿していただきます。この他の学術雑誌、学会、出版物等においても積極的な発表をお願いします。研究成果を発表する場合には、発表資料に協会の助成を受けた旨を明記するとともに、その発表資料(英文の場合は日本語訳を添付)を協会にご提出ください。
- (3) 情報収集助成における情報収集報告については、日本ウマ科学会が発行する「ヒポファイル」又は「JOURNAL OF EQUINE SCIENCE」に、協会の助成を受けた旨を明記した上で投稿していただきます。この他の学術雑誌、学会、出版物等においても積極的な発表をお願いします。発表する場合には、発表資料に協会の助成を受けた旨を明記するとともに、その発表資料(英文の場合は日本語訳を添付)を協会にご提出ください。
- (4) 研究発表会やイベント等での研究成果発表をお願いします。

9 その他留意事項

- (1) 他の機関から助成を受けている課題は応募できません。
- (2) 同一又は類似の課題で研究助成と情報収集助成を同じ年に重複して応募することはできません。
- (3) 所属機関の間接経費(オーバーヘッド)は、必要最低限の金額を助成金額に含めることができます。
- (4) 研究の進捗状況や経費の支出状況について、協会事務局の職員が電話やメール、訪問等により確認を行うことがあります。

*お問い合わせ先

一般社団法人 日本競走馬協会

〒106-0041 東京都港区麻布台 2-2-1 麻布台ビル

電話 03-3505-3445 FAX 03-3505-3455

(別紙)

募集テーマ

1 飼養管理分野

- (1) 飼養管理の省力化・効率化に関する研究
- (2) 馬の異常の早期発見に関する研究
- (3) 分娩における事故リスク低減に関する研究

2 育成・調教分野

- (1) 育成・調教における故障リスク低減に関する研究
- (2) 調教の負荷レベル把握に関する研究
- (3) 育成期における筋肉・骨格・心肺機能の成長に関する研究

3 獣医療分野

- (1) 疾病・感染症に関する研究
- (2) 診断・治療技術に関する研究

※再生医療については遺伝子操作を行わないものに限る。